

# どこまで本気で考えているか、それがすべてです。

大和証券グループが掲げた「CSRの4つの重要課題」\*1について、執行役社長 鈴木茂晴が語りました。



大和証券グループ本社 執行役社長

鈴木茂晴

### ■ 投資に社会的な視点を入れた商品を扱うことで、自分の仕事が社会に役立っていることを実感できる

企業とはそもそも公共的なものであり、社会的に意義があるから存在することが許されています。社会的意義のない会社は必ず淘汰されます。私は役職員に「大和証券グループは経済の基盤を支える重要な役割を担っている企業である」という意識を常に持っていてもらいたいと思っています。だから「あなたたちは社会に役立つ仕事をしているんだ」というメッセージを送り続けているんです。SRI投資信託に関しても、日本の証券会社のなかで一番真摯に取り組んでいるのは大和証券グループなんだということを伝えています。

そういう意味では、たとえば「ワクチン債」\*2という商品は非常にわかりやすい。これによって数十万人の子どもの命が助かるわけですから、自分の仕事が社会に役立っていると役職員が実感できるはずです。

今の時代、環境問題や社会問題について言及しない企業はありません。そこでの違いは何か。それを一言で言えば「本気度」です。トップから一人ひとりの役職員にいたるまで、どこまで本気で考えているか、それがすべてだと私は思っています。経営者が本気で考え、役職員がそれを理解していれば、社会に役立つプロジェクトは自発的に生まれてきます。そういう組織としての柔軟性を大和証券グループは持っていると思っています。

### ■ 一人ひとりの仕事への誇りが健全な証券市場をつくる

企業が成長するためには、リスクをとって資金を提供する投資家が必要です。つまりリスクマネーがなければ企業は事業を拡大できません。こうして経済が発展することを考えれば、リスクマネーと企業を結びつけている証券会社の役割がいかに重要かわかります。その意味を本当に理解し、自分の仕事に誇りを持っているれば、倫理に反した行為はしないはず。会社組織としてそう

ということが起こらないような仕組みをつくり、研修などを通じて役職員へ意識浸透させていく。こうした努力は、経営者として常に一生懸命取り組んでいます。

また、証券取引には損得がつきものですから、お客様は損をすれば文句のひとつも言いたくなるのは当然かもしれません。しかし、「自分はきちんとした仕事をした」という自信を持っていれば、販売した役職員の気持ちが揺らぐことはないはずです。役職員が手数料だけを追っているとしたならば、お客様との間に信頼関係なんて成り立たない。それでは、仕事に誇りを持つことなどできるはずがありません。

法律、コンプライアンス、それだけの話ではなく、そこを超えてもう一段上に行かないといけません。法律に反していなくても、社会常識から見ておかしいビジネスはしない。そうした意識を持って一人ひとりが仕事に臨むことが重要なのです。

## ■ 次の世代にクリーンな地球を渡したい

私は、私たちの子どもや孫に、クリーンな地球を渡さなければならぬと思っています。

日本には天然資源が少ない反面、幸いにも多くの優れた環境技術という資源があります。だからそのような技術を活用し役立てていくために、国内外の企業を結びつけるなど、私たちにできるサポートをしていきたいと思っています。

「ラッセル世界環境テクノロジー・ファンド」という投資信託をこの4月から販売しているのですが、このファンドは米国のゴア元副大統領の創立したジェネレーション社が一部を運用しています。ジェネレーション社はこれ以上運用資金を増やさない方針だったのですが、大和証券グループは、ワクチン債の実績を説明した直後に販売パートナーとして選ばれた経緯があります。これまで本気で取り組んできたことが、ここにきていろいろな場面でつながってきていると感じています。

排出権取引については国や企業それぞれの立場によって、主張が異なるなど難しい面もありますが、地球環境の保護に役立てるようなものを常に工夫してやっていきたいと思っています。

## ■ 多様なチャネルを通じて、経済や金融に関する知識やノウハウを発信していく

証券ビジネスを通して培ってきた知識やノウハウを社会に還元していくために、大学の講座で役職員が講師を務めるなど、産学連携や経済・金融教育にも取り組んでいます。



また、私たちは「ダイワ・証券情報TV」という放送局を持っていますが、ここで初心者向けの証券番組を放映するなど金融・証券知識の普及にも活かしています。学校でもっと経済や金融の仕組みについて教えてもらいたいと思いますが、そのためにはまず先生に興味を持ってもらうことが必要です。私たちは今、NPOと協力して先生向けの経済・金融教育プログラムをつくる計画をしています。

## ■ 役職員の幸せと仕事の充実のためワーク・ライフ・バランスを重視

仕事と生活の両方が充実してこそ、仕事でも最大の力を発揮できるのです。私たちの世代は、人生を丸ごと会社に捧げたような人が多くおられるわけですが、私はそれを役職員に求めています。会社では偉くなっただけで、家族からはかえりみられない、などというのは幸せな人生とは言えないでしょう。これからは公私ともに充実した生活を送れる職場に優秀な人材が集まってきます。

生きがい、働きがいを持っていないとモチベーションが上がらないですし、会社や仕事に対する誇りも持てないのではないかと。会社でも私生活でも生き生きとしてほしい。これに尽きます。

\*1 CSRの4つの重要課題：大和証券グループは「投資に社会的視点を」「健全な証券市場の発展に向けた取組み」「地球環境への取組み」「持続可能な社会に向けた情報発信」の4つをCSRの重要課題としています（P.10参照）。

\*2 ワクチン債：開発途上国における医療および予防接種サービスに対する資金供給の面で支援する債券（P.12参照）。